



NPO
法人

日本高山植物保護協会 JAFPA

2023.1.1 No.97

- コロナ禍とは関係なく進む高山植物の危機
- 檜枝岐村アンドンマユミ調査
- 大学生高山植物保護活動研修事業
- 北海道の山々を巡って
- 三ツ峠観察会
- 白馬五竜高山植物園観察会
- 関西支部活動報告
- 昭和大学北岳支部活動報告
- 静岡支部活動報告
- 高山に咲く花
- 高山植物一口メモ



セイタカダイオウと私 ブータン自生地にて
(写真提供：岩科 司)

コロナ禍とは関係なく進む高山植物の危機

会長：岩科 司

この3年間、世界を震撼させた新型コロナウイルスであったが、それとは全く関係なく、人類がもたらした急激な地球の温暖化は、多くの植物に様々な影響を及ぼしており、その中でもとりわけ、ほとんどの植物が寒冷な気候を好む高山植物では顕著です。これに対する基本的な対策は、温暖化の進行そのものを抑止させる以外にありえず、それを多くの方々に訴え続けることが当協会にとって、極めて重要な責務であることは間違いありません。しかしそれだけではなく、具体的な活動を今まで以上に遂行していく必要があります。

特に若い世代に、現在の高山植物のおかれている現状と、その対策に関心を持って頂くことを目的として、財団法人国際花と緑の博覧会協会の助成のもと、次世代を担う大学生に対して、三ツ峠のアツモリソウの自生地の保全作業を、会員とともに実際に体験してもらう会を催しました。現在の高山植物のおかれている現状を、若者が把握し、今後の推進力になって頂けると願っています。これに関連して、昭和大学が開催した

リカレントプログラムでは、私と副会長で昭和大学副学長の木内祐二先生が、高山植物に関する講演を行いました。残念ながら、北海道旭岳で行う予定であった実地研修はコロナ禍の影響で中止になってしまいましたが、このような試みも、若者を中心とした多くの方々に、高山植物への関心を高めるのに貢献できたと思っています。また、中日新聞では、日本の高山植物とその現状について関心を持って頂くために、小中学生の読者を対象とした「中日こどもウイークリー」で、高山植物とはどのような植物か、人間と高山植物との関わり、どうして高山植物がなくなってしまうと大変なのか、などを特集して頂きました。

徐々に高齢化社会が現実的になっている今、人類も含めた“生物多様性”の一部を構築する高山植物の現状と保全を、若い世代の方々に認識して頂くことが、今後いっそう重要になってくると思っています。そのために当協会が中心になり、多くの世代に訴え続け、活動していくことが極めて重要であると感じています。



檜枝岐村アンドンマユミ調査

本部調査員：長谷川文

■調査目的

アンドンマユミは国内では檜枝岐村でのみ確認されたニシキギ科の希少種植物であるが、現在、野生での自生が確認されていない。ごく少数の移植された個体や播種されたものが個人宅や植物園で栽培されているのみである。

環境省がレッドデータの登録種として保存対策を講じる上で、まずは野生での自生個体を確認する必要がある。自生地での探索調査を行い、確認できない場合は現存の栽培個体を種の保存法を適用して保全、増殖を図る。

■下見調査

7月7日から8日にかけて岩科会長、中村本部長及び本部事務局員に同行して下見調査を行った。



檜枝岐村役場で自生地の情報収集

7日は檜枝岐村役場を訪れ、本件についての話し合いと情報収集を行い、その後、自宅でアンドンマユミを保存している平野氏宅を訪れ、お話を聞きアンドンマユミを見せてもらった。翌8日は、同様にアンドンマユミを保存している星氏宅を訪れ、お話を聞き現存状態を確認した後、かつての自生地とされた林道沿いを視察した。



平野氏宅のアンドンマユミ栽培個体／若い果実



アンドンマユミ (筑波実験植物園植栽)

両氏によると、自宅に保存されているものは播種栽培されたもので、病害虫に弱く育成が難しい、また自生地は大岩がゴロゴロしているとの情報が得られた。視察地にはニシキギ科のマユミ、コマユミ、ツリバナは数多く見られたが、この時期にアンドンマユミを見つけることは困難に感じられ、探索調査は果実期の9月下旬を予定した。

■探索調査

9月23日から24日にかけて岩科会長、中村本部長をはじめとした6名の調査員でかつての自生地周辺の調査を行った。24日には2名の会員が調査に協力参加した。

アンドンマユミの形態としては果実が特徴的でよく知られているが、葉は長さ4～7cm、幅2～4cm、先端はやや尾状に伸び、葉の表面は無毛、葉脈が深く凹み、裏面脈上に白毛が多い。若枝には茶褐色～灰色の木質の突起物が付着し、太い幹では縦に筋状に見える。紅葉したニシキギ科の葉を探してから果実で同定するのが確実だが、調査時は紅葉には早く、マユミ、コマユミ、ツリバナ、オオツリバナ、ヒロハツリバナは確認できたが、目的のアンドンマユミは残念ながら見つかることができなかった。結果を踏まえて環境省と今後、協議を詰めていく必要があるだろう。



調査地のオオツリバナ／色づいた果実



大学生高山植物保護活動研修事業

事務局長：山本義人

昨年度は花博記念協会助成金交付を得て「大学生高山植物保護活動研修事業」を開催し、情報誌 No95 に報告記事を掲載した。新型コロナウイルス感染拡大といった環境下では大勢の参加者による実施は望めなかったが、大学生の研修事業は有意義なこととして評価されており、当協会の継続事業として、コロナ禍は続いていたが今年度も 6 月 11 日から 12 日にかけて、三ツ峠山頂周辺の希少植物自生地で実施することにした。

昭和大学北岳支部長・木内副会長の昭和大学から医学生 2 名（白馬診療部）の宿泊参加と静岡支部長・鶴飼理事の静岡県立農林環境専門職大学短期大学部の 4 名の学生の日帰り参加での実施となった。

11 日の昼までに三ツ峠山荘に集合し昼食をとってから、三ツ峠山荘オーナーの本部長・中村専務理事に自生地を案内してもらいながら、アツモリソウやカモメランなどのラン科植物の生態や生育環境、盗掘や温暖化、それにシカ食害などの問題やその対策活動について説明を受けた後、ボランティア団体・三ツ峠ネットワークのメンバーと一緒に自生地植生回復作業を体験。夕食後はネットワークメンバーと交流できる機会をもち、翌 12 日は登山道の損傷した立入防止ロープ



アツモリソウ自生地の生態系学習と回復作業



登山道の損傷ロープの撤去と杭とロープの新設作業

などを取り外し、新たにプラ杭を打ち込んでロープを張り直す作業を体験してもらった。

山梨県の希少種保護活動の一環として、当協会は設立当初からアツモリソウの保護に取り組んでおり、三ツ峠の自生地は環境省委託事業「国内希少種違法採取監視等業務」の実施個所の一つである。2010 年からのシカ食害問題により、みんなで守る保護活動を展開するため、ボランティアグループとして三ツ峠ネットワークをスタート、登山道整備や防鹿柵設置、植生回復作業を行ってきており、研修事業を行うのに適した現場であり、今後も継続していきたい。

昭和大学 PRESS ROOM からの転載記事

高山植物保護活動に医学部生が参加

本学高山植物保護サークル（代表：木内祐二副学長）の活動の一環として、日本高山植物保護協会（JAFPA）が推進している高山植物保護活動に、2 名の医学部生が参加しました。今回の活動は、高山植物保護の研修を兼ね、三ツ峠（1,785m、山梨県都留市）で 6 月 11 日・12 日に行われました。

「あなたがみている“自然”、本当に自然ですか？」
医学部 6 年 宇野裕喜（白馬診療部）

平敦盛の羽衣をその名前の由来としたラン科植物、アツモリソウ。バブル時代から続く盗掘、鹿の食害、テンニンソウによる植生の単一化により特定国内希少野生動植物種に指定されています。私たちが参加したのは、富士吉田キャンパスから 17km 北に位置する三ツ峠で、アツモリソウを守る日本高山植物保護協会の活動です。テンニンソウは根で複数の株が繋がりと、良い環境を独占し他の植物の居場所を奪います。今回はテンニンソウの伐採と、登山道ロープの補修を行い、自然保護と多様性について考える貴重な機会となりました。私たちが登る白馬岳にも多様な植物が咲いていますが、知識がない私たちはそれが本来の自然かわかりません。

また、三ツ峠が教えてくれたのは写真で植生の変化を残すことです。私たちは学生として 5 年間、医師として生涯登ります。写真で記録すれば、今年はその花を見ていないと気づきます。その気づきこそ多様性を守る活動の第一歩になると思います。

「山岳における植物すべてに慈愛をもって」
医学部 5 年 香川直輝（白馬診療部）

6 月 11 日と 12 日に三ツ峠にて高山植物保護活動に参加させていただきました。私は毎年、白馬診療部活動で白馬岳に登らせていただいておりますが、その際にあまり高山植物について考えたことはありませんでした。しかし、今回の高山植物保護活動を通して、植物保護の大切さを痛感しました。高山植物は山というあまりにも縛りが無い中にあるため、乱獲などによって植生が失われる可能性が大いにあります。これらの植物を人の手で守っていくことで、植物、植生がいつか私達に本当の美しさを示してくれるのだと痛感しました。今後、高山植物だけでなく、山岳における植物すべてに慈愛をもって接していきたいと思っています。最後にこのような貴重な機会を頂けたことに感謝し、今後もこの活動が後輩にも広がるように伝えていきたいです。

* 参加した両名はサークル仲間と体験を共有するためプレゼン資料をパワーポイントで作成しています。



北海道の山々を巡って

本部事務局(総務担当)：中村祐太

7月末、昭和大学の社会人向け講座「リカレントカレッジ」の高山植物研究を受講した。講師は岩科司会長と副会長で昭和大学副学長の木内祐二先生。コロナの流行により北海道旭岳での実地研修は中止となってしまったが、オンラインによる岩科先生の講義を受けた上で個人的に北海道の山々を巡ってきた。日本や世界の高山植物の種類や分布を解説して頂き、事前知識として北海道に分布する花を知ることができ、現地で出会える花々に期待しながら北海道へ向かった。



樽前山、旭岳、雌阿寒岳、昆布岳と巡った4日間。初日に樽前山へ登りイワブクロ(タルマイソウ)やイワギキョウを眺め、翌日は本来実地で訪れるはずであった大雪山系の旭岳へ向かった。登山口へ向かう途中、同じく個人的にいらしていた岩科先生を偶然お見掛けし、ロープウェー山頂駅周辺の探索に同行させて頂いた。

綿毛の絨毯をつくっているチングルマ、深い青



をしたミヤマリンドウ、可愛らしいピンクのエゾコザクラ・エゾノツガザクラなど。上げればキリがないが多種多様な花々がそれぞれに群落を作り見事な一つの世界を作り出している。

姿見ノ池から見る旭岳の白煙を上げ続けている姿は山の呼吸のようにも感じられた。まるで散りばめられたような池を見ても、アイヌの人達がカムイミントラ(神々の庭)と呼ぶのも納得できた。

周辺を解説して頂きながら一回りしたあと、岩科先生とは別れ一人旭岳に登り、下山の後雌阿寒岳方面へ向かった。途中運転中に見た層雲峡の柱状節理が続く景色も素晴らしく、長い年月がこの風景を生み出したのだと思うとロマンを感じた。



雌阿寒岳では山頂から見えるガスが噴き出る荒涼しい火口のすぐ近くに咲くメアカンキンバイ、メアカンフスマ、コマクサ等の花達に、この場所を選びここに定着した逞しさに感動を覚えた。帰路の新千歳空港に向かう途中ついでにニセコ近くの昆布岳に登り山旅を終えた。

私達が見ている地形やその上に出来た植生は決して偶然の産物ではない。地形を作り出した地球の長い年月の活動が有って、さらにその地形や環境でのみ生き抜くことが出来た高山植物の気高さや生命力に私たちは感動するのだろう。

高山植物は地球環境のバロメーターだ。人為的な環境変化で絶やすことは絶対にあってはならない。北海道の山や自然が持つ圧倒的なスケールが説得力をもって私に訴えかけてきた。JAFPA会員として何をすべきか私自身に問いたいただきたい。

今回のような素晴らしい講座を設けて頂きありがとうございます。来年以降も是非参加したいし、他の会員の方にも参加して頂けたらと思います。



三ツ峠観察会

専務理事・本部長：中村光吉

6月15日正午頃に三ツ峠山荘前に集合。参加者は私を含めて5人。天気はあいにくの曇り時々小雨。山頂周辺にて開催。木無山側からスタートした。防鹿柵のなかで丁度咲きだしたアツモリソウを見て貰う。人の盗掘が酷かった時に山荘の先代により守られたからこそ、各々遺伝的多様性が護られ現在の個体の多様な遺伝子が残し、今こうして見る事ができることや、ラン科の特性である昆虫に依る交配のメカニズムなどを説明し、自然界の巧妙な仕組みに感心してもらうことができた。

御巢鷹山から山頂の開運山方面の観察も行う。カモメラン自生地では、現在他の山では無くなりつつあるが、ここではまだ見るができることを解説する。菌や昆虫の存在が不可欠で全体の自然界が健全であることが重要である。また、ニホンジカは現在高山にまで住み着き、柵の外側はトリカブトやマルバダケブキくらいしか無くなりつつあることも理解してもらった。

【参加された木寺さんの報告と感想】

午後小雨の中で観察会。貴重植物の保護の為に柵で囲まれた中へ入り、草花や地形や植生を見ながら説明を受ける。『盗掘と鹿食害が主な原因で貴重植物は消えている』、『ラン類の花は菌と昆虫に依存しているので全体の植生を守らなくてはいけない』、『保護するためには人の手助けが必要で、バランスを崩した自然界の回復作業をしている』、

『50年前の自然環境に戻したいと努力している』、『現地に来て見て参加する人達が増えて欲しい』と、熱いお話を聞きました。

柵の内と外の違いも見えて歩く。柵の高さ1m80cmを鹿は軽々飛び越えて草花を食べるので、更に高い柵を作って入らなくした対策を見る。柵の中の草花が保護された植生と、柵の外は鹿が食べつくしトリカブトだけが残った風景。登山道側面で草花は頑張っって少し咲いていた。山頂（開運山1785m）へも登った。山荘に帰って保全に対する考え方を写真を見ながらお聞きした。夕食をおいしくいただいた後は三ツ峠ネットワークのメンバーとの懇親会も和気あいあいと楽しい時間でした。

アツモリソウ、キバナノアツモリソウ、ヒメムヨウラン、グンナイキンポウゲ、クルマバツクバネソウ、クサタチバナ、ミヤマカラマツ、マタタビ、カモメラン、ミミガタテンナンショウなどの花の写真を撮りました。

観察会に参加して、昔から咲いている草花や樹木の観察だけでなく、希少種の保護をするためにはバランスを崩した自然界の回復作業をするためには人の手助けが必要になっている現状と、柵の中で保護しなければ、希少種の盗掘や鹿の食害を防止出来なくなった現実と、本当に長い年月の保護の努力と大変さを、翌日のササとテンニンソウの草刈りの体験で実感しました。50年前の自然環境の回復を目指して色々な努力をされている説明をお聞きし、多くのボランティアの参加の大切さも感じました。

山荘前にて集合写真



山荘でアツモリソウ生育地の環境や、ラン科植物の生態、希少種保護活動、生育地の回復作業の経緯などを聞く。

アツモリソウ



アツモリソウ自生地の植生回復作業で除伐されたテンニンソウを観察。地下茎でつながっている。

カモメラン



山頂周辺のカモメラン自生地にて、カモメランの現況を観察。希少植物保護の注意看板あり。





白馬五竜高山植物園観察会

理事：坪井勇人(白馬五竜高山植物園責任者)

白馬村にある標高1500mのスキー場の夏を利用した植物園は、11月から翌年5月までは積雪に覆われ、夏も涼しいことで高山植物の栽培には適した環境であり、300種類以上の高山植物を植栽しています。高山植物というと、本格的な登山をしてようやく出会えるような敷居が高いイメージもあるかもしれませんが、スキー用 Gondola に乗り誰でも簡単にアクセスができ、整備された歩道や植物の解説看板を見ながら安心して高山植物に親しめる場所になっています。

観察会を開催した7月1日は、初夏に咲く高山植物を観察するには最適な季節でした。岩科会長をはじめとして11名の方に参加していただき、植物園をご案内しました。



植物園の広場での集合写真

天候にも恵まれ、五竜岳から白馬岳までの北アルプスが良く見える日でした。ニッコウキスゲ、シラネアオイ、ミヤマ

ハンショウヅル、イワヒゲなどが咲き、植物園スタッフが大切に育てているコマクサの群生の様子も見ていただくことが出来ました。

近年力を入れている絶滅危惧種の域外保全においては、(公社)日本植物園協会の保全事業として

白馬岳周辺から採集した種子を用いて栽培したタカネキンボウゲやクモマキンボウゲなどが開花に至っている成果も見ていただきました。



自然を再現した生態園の様子



絶滅危惧種の域外保全の様子

——参加者された岩科会長からのコメント——

高山植物を栽培する施設は少ないので、白馬五竜高山植物園にはこれからも頑張りたいと思います。普及啓発を目的として希少な高山植物を一般にも見られるようにしていることは良いと思います。今後も定期的に白馬五竜で観察会をするのも有意義かと思っています。

関西支部活動報告

副会長・関西支部長 小谷哲朗

■法人部会主催の環境学習会

関西支部法人部会が主催して毎年秋に環境学習会を行ってきており、今年は3年ぶりの開催となりました。今までのようにバスを仕立ててというのは避け、現地集合・現地解散で計画しました。

11月12日、少し暑いくらいの秋晴れに恵まれ、大阪市鶴見区の花博記念公園にある「咲くやこの花館」を見学しました。4歳と7歳のお子さんも含めて27人が参加、大きな温室の中はいくつかのブロックに分かれていて、花博の際に世界中から集められた花が育成されていて、1990年の開館当時からあるキソウテンガイという植物など興味をひかれるものもあります。熱帯のものから極地のものまで、乾燥地の植物や高山植物も含めて、様々な生育環境に育つ植物を知ることができます。これらは管理栽培されているものですが、いながらにして世界各地の植物を見ることができます。花期の違う花が一緒

に咲いているのは奇妙ではありますが、こうして保存していくことも大事なことだと思われます。

昼食前に集合写真を撮り解散としました。午後は広い公園内を各自で散策してもらいました。花博記念公園は鶴見緑地の中にあり、バラ園、国際庭園、日本庭園、花博記念ホールなど見どころはたくさんあり、風車の丘ではコスモスの花も見頃で、多くの人でにぎわっていました。これを機会にまた関西支部でも活動を再開していきたいと考えています。





(関西支部活動報告続き)



■伊吹山の貴重植物保護現地作業

10月3日、京都大学の高柳敦先生の指導で、伊吹山に貴重植物保護柵を設置する作業が行われ、本部からの参加者と一緒に、関西支部からも私と西山副支部長の2名が参加してきました。足場の悪い斜面での作業は私たちには初めての経験でしたが、予定の時間を越えての作業はなかなか貴重な体験でもありました。主催者側からは当協会からの作業参加に対して大変感謝の言葉をいただきました。

昭和大学北岳支部 活動報告

副会長・昭和大学北岳支部長 木内祐二

新型コロナ禍による診療部活動の中止（令和2年度）あるいは縮小（令和3年度）により、高山植物保護活動の多くが中断、制限されていた。令和4年度の夏季診療部活動は一定の制約はあったが、3年ぶりに本格的に再開し、それに伴い北岳周辺の貴重な高山植物保護のための活動も学生部員を中心に積極的に取り組んだ。



第11回ポスターコンテストの入賞作品



登山道のゴミ拾い

■北岳診療所夏山活動期間の高山植物保護活動

7月23日～8月17日の活動期間に①白根御池小屋と肩の小屋に高山植物保護を訴えるポスター（第11回ポスターコンテスト入賞作品）を貼付、②北岳山荘を中心に高山植物の観察と保護パトロール、③北岳登山道のゴミ拾いといった活動を行った。

■高山植物とその保護活動に関する勉強会

昭和大学薬学部臨床薬学講座天然医薬治療学部門の川添和義教授による第11回講演会「山の植物と薬の話」を3月19日にオンライン+大学内

対面のハイブリッド形式で開催した。講演会後にポスターコンテスト入賞作品の表彰を行った。

静岡支部活動報告

塩見岳植生復元活動に参加して

静岡支部事務局（会計） 飛野哲緒

令和4年度の南アルプス防鹿柵の維持管理や植生復元活動は、昨今のコロナ禍の自粛ムードにあってもほぼ例年通り行われ、9月18日から20日にかけて塩見岳で行われた活動に参加してきました。

- 1日目(18日)、天候は穏やかで、大鹿村の鳥倉林道越路ゲートにお昼に集合、午後3時頃迄に三伏峠小屋へ順調に行くことが出来ました。
- 2日目(19日)、5時30分に三伏峠小屋を出発し、塩見小屋にデポしてあるヤシマット及び敷設に必要な物品一式を皆で分担して歩荷しました。ヤシマットは1巻15kgほどで、重さもさることながら長尺物(長さ1.5m)で、山道では運ぶ際、安定が今一つで天狗岩あたりでは少々難儀でした。ヤシマットを塩見岳東峰直下に敷設することで、高山植物の種子定着を

図り、さらに表土流出を防ぐことが目的です。

この日雨模様ということもあって、今回は敷設地の脇にヤシマット等の資材をデポして敷設作業は行わず、この週の半ばに来る二次隊に敷設してもらうことになりました。デポ後、16時に三伏峠小屋へ戻りました。

ここ数年で塩見岳東峰直下に敷設したヤシマット群は相当な広さになっていて、数年経過した一部のヤシマットには、植物が散見されました。

- 3日目(20日)、朝6時下山を始め、9時、越路ゲートで無事解散となりました。



ヤシマットを歩荷



ヤシマットを敷設(9月25日)

高山に咲く花

ホームページ画像投稿ページに投稿された（3569）中島正登氏並びに（3615）渡邊昭彦氏の写真を一部掲載します。オリジナル写真はホームページ [<https://npo-jafpa.or.jp>] をご覧ください。
画像投稿される方は本部事務局アドレス [info@npo-jafpa.or.jp] 宛にメールで送ってください。



エゾイワツメクサ (3569)



エゾタカネツメクサ (3569)



メアカンフスマ (3569)



エゾツツジ (3569)



チシマキンレイカ (3569)



カムイコザクラ (3569)



アポイアズマギク (3615)



アポイキンバイ (3615)



サマニユキワリ (3615)

高山植物一口メモ タカネシオガマ ハマウツボ科

本州中部と北海道の高山帯の礫地や風衝草原に分布、草丈が低く、花序が詰まってずんぐりして毛が多い。氷河期からの遺存植物の形態を色濃く残している高嶺の花で、名の起こりもそこからきているという。草丈 5~15cm の 1 年草で、花期は 7 月から 8 月、花色は濃紅紫色、密に花穂につき美しい。花冠は長さ 15mm ほどで、下部は細長い筒となり、上部は 2 裂して唇形となる。花冠上唇は縦に平たい筒形で先は丸く突起を欠き、下唇は水平に広がって 3 裂し、中央部には暗紅紫色の斑紋がある。

千枚岳から悪沢岳へ入り、しばらくするとミヤマオダマキ、タカネナデシコ、ミヤマムラサキ、アカイシリンドウ等々、美しい花々の咲くお花畑が広がっている。夏の一日、千枚岳から遊びに行ったときの 1 枚で、まさに氷河期からの遺存植物といった風情で咲いていました。



令和 5 年 1 月 1 日発行

特定非営利活動法人 日本高山植物保護協会

住所：〒401-0304

山梨県南都留郡富士河口湖町河口 1672

電話：055-251-6180

携帯：070-1387-5274

E-mail アドレス： info@npo-jafpa.or.jp

HP アドレス： <https://npo-jafpa.or.jp>

